



政府がすすめる医療 DX と病院内でできる医療 DX

常務理事●中島 公博

政府がすすめる医療 DX の進捗

医療 DX（デジタルトランスフォーメーション）とは何か。厚生労働省の資料をみると、医療 DX の定義は、「保健・医療・介護の各段階において発生する情報やデータを、全体最適された基盤を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること」とされている。DX とは、進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革することで、医療機関にとっては、デジタルを用いて利便性の良い診療に変えていくということになる。

令和4年10月12日、政府は医療 DX 推進本部を立ち上げ、同年11月24日、第1回の医療 DX 推進本部幹事会が開催された。医療 DX の推進については、経済財政運営と改革の基本方針、いわゆる骨太方針2022に記載されている。具体的に推進すべき施策として(1)「全国医療情報プラットフォームの創設」、(2)「電子カルテ情報の標準化等」、(3)「診療報酬改定 DX」を三本柱としている。

医療 DX の推進に関する工程表には、(1) 全国医療情報プラットフォームの創設では、オンライン資格確認システムの拡充、電子処方箋の普及、介護保険、予防接種、母子保健、公費負担医療にかかるマイナンバーカードを利用した情報連携などが挙げられている。また、(3) 診療報酬改定 DX については、診療報酬と患者負担の統一的な計算プログラムである共通算定モジュールを開発し、2026年度より本格的に提供するとされている。

一方、(2) 電子カルテ情報の標準化では、令和5年度に必要な要件定義等に関する調査研究を行い、令和6年度中にクラウドベースの標準型電子カルテの開発に着手。電子カルテ未導入の医療機

関を含め、電子カルテ情報の共有のために必要な支援策を検討し、遅くとも2030年には、おおむねすべての医療機関において、必要な患者の医療情報を共有するための電子カルテの導入を目指すとしている。電子カルテ情報の標準化には、共有する情報3文書（診療情報提供書・退院時サマリー・健診結果報告書）、6情報（傷病名・アレルギー・感染症・薬剤禁忌・検査・処方）の統一化と HL7 FHIR（世界標準の規格）に準拠した標準型電子カルテの普及が必要になる。

令和5年12月と令和6年3月の2回にわたり、筆者が構成員を務めた標準型電子カルテ検討ワーキンググループの会議が開催された。主催は、厚生労働省とデジタル庁である。令和5年6月に「医療 DX の推進に関する工程表」（令和5年6月2日医療 DX 推進本部決定）が取りまとめられ、標準型電子カルテについては標準規格に準拠したクラウドベースの電子カルテの整備を行っていくとされたことから、「電子カルテ・医療情報基盤」タスクフォースという組織の下に、このワーキンググループが設置された。このワーキンググループは、標準型電子カルテの技術的な要件について医療機関等で利用する従事者の意見を広く聞き取るため、その構成員には、日本精神科病院協会のほか、日本医師会、全日本病院協会、日本病院会、日本慢性期医療協会、日本医療法人協会、日本看護協会等が含まれる。検討した内容は、標準型電子カルテの導入対象はどこにするか、導入に向け考慮すべき点は何か、実装機能・構成について、などであった。構成員からは、紙カルテを併用し、必要最小限の機能を持った電子カルテで良いのではないかとの意見もあった。

医療 DX に関しては、クラウド型／オンプレミス型、プラットフォーム、ベンダー、HL7 FHIR、API、PHR など数多くのカタカナ語、略語があり、まずはその言葉の理解が必要になる。

我々ができる身近な医療 DX

クラウド型の電子カルテといっても、雲をつかむようなものである。まずは、病院内でできる身近なデジタルの利用を考えるべきである。五稜会病院における DX として、グループウェア、院内ホームページを用いた院内ネットワーク、電子カルテ（平成 22 年）、エクセルを用いた文書作成、電子カルテ入力作業向上がある。

まず、各種文書をいかに効率良く作成するかについて触れたい。医療機関では、訪問看護指示書、障害支援区分・介護保険意見書、生活保護や生命保険会社からの病状照会等、さまざまな書類がある。さらに精神科では、精神保健福祉法に関する医療保護入院届・退院届や自立支援医療意見書、精神障害者手帳、精神障害者年金、障害福祉サービス意見書等、書類が山のようにある。いかに書類作成の効率化を図り、書類作成に関わる時間を減らすかが重要である。

当院では、ほとんどの書類をエクセルで作成し、電子カルテの文書管理に登録している。患者氏名、生年月日、年齢、性別、住所等の基本データは、電子カルテからひも付けされ、書類に入力される。クラークが電子カルテの文書管理に収納後、医師は、書類を立ち上げて必要箇所を記載、印刷することで、医師の書類作成時間を大幅に短縮させている。令和 4 年 1 年間（当院は 193 床、令和 4 年 1 年間の入院者数 684 人、外来実人数 3,507 人）の各種書類件数は、診療報酬上の算定数でみると、診断書 1,037 件、傷病手当金意見書 1,001 件、自立支援意見書 999 件、障害者年金 404 件、障害者手帳 354 件であった。ほかに生活保護病状調査が 458 件、入院要否が 435 件、外来要否が 270 件の計 1,163 件あり、総件数は 4,958 件であった。

参考として、生活保護関係の書類（通院・入院要否意見書、病状調査票）の作成費は、「生活保護法・指定医療機関医療担当規程」第 7 条によって、料金が徴収できない。これは無報酬の労働である。令和 5 年 3 月 24 日、日精協が提案し、四病協から厚生労働大臣宛に「生活保護法・指定医療機関医療担当規程」第 7 条の見直しの要望書を提出している。

エクセルを用いた文書作成の好事例として、令和 5 年 1 月から書式が変更になった全国健康保険協会の傷病手当金の申請書について紹介する。新

書式では、氏名をカタカナで 1 マスごとに入力し、それも「姓と名の間は 1 マス空けてご記入ください。濁点（・）、半濁点（゜）は 1 字としてご記入ください。」とある。銀行の振込用紙と一緒に、パソコン入力となると、1 マスごとに入力するのは面倒この上ない。「ナカジマ」の「ジ」は、「シ」と「ド」を入れることになる。そこで、電子カルテからひも付けされた全角カタカナ氏名を、Ask 関数を用いていったん半角に変換して、その文字列の左から 1, 2, 3, 4 番目の文字を順に 1 マスごとに入力し、そして、申請書のカタカナ氏名欄には、JIS 関数で全角に戻す。これで、入力のしやすさが大幅にアップする。このエクセルの書式は、五稜会病院ホームページにアップロードしている。

二つ目の院内 DX として、電子カルテの入力作業の向上が挙げられる。病棟ではいつも看護師が電子カルテの入力に忙殺されている。入力する文言は医師記録と同様に大体が定型文であり、固有名詞や薬剤名などを入力することも多い。この入力作業を簡便にするために単語登録に病院全体で取り組むことを目指して、令和 6 年 6 月に電子カルテ入力向上委員会を立ち上げた。例えば、「五稜会病院」は「ご」、「統合失調症」は「とう」、「山崎學」は「やま」、「リスペリドン」は「りす」のようにしておけば、変換ミスもなく簡単に入力が可能になる。一人ひとりの入力作業が短縮されれば、病院全体で大きな業務改善につながる。

最後に一言。令和 6 年から精神科急性期治療病棟でも、「データ提出加算」のため膨大な項目の報告義務が発生した。電子カルテと「医事コン」との連携を図ろうとすると業者への支払いが 200 万円近くかかる。病院スタッフが簡単に報告できるようなシステムにすればよいだけと思う。医療 DX や闇雲（やみくも）なクラウド化は、業者や三大クラウド会社を利するだけで、病院や患者にはまったく恩恵をもたらさない。これこそ暗雲の漂う話である。

文 献

中島公博：民間の単科精神科病院における電子カルテ上の文書管理の効率化を目指して。札幌市医師会医学雑誌 (48) : 67 - 68, 2023.

五稜会病院ホームページ。精神科教育ライブラリー。【GMCPLM0030】

「五稜会病院 DX と政府がすすめる医療 DX」。

